(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第5395946号
(P5395946)
(45)発行日　平成26年1月22日(2014.1.22)　(24)登録日　平成25年10月25日(2013.10.25)

(51)Int.Cl.		F I		
A47B 83/04	(2006.01)	A47B	83/04	
A47B 87/02	(2006.01)	A47B	87/02	
A47B 17/00	(2006.01)	A47B	17/00	A

請求項の数 1　(全 14 頁)

(21)出願番号	特願2012-246745 (P2012-246745)
(22)出願日	平成24年11月8日 (2012.11.8)
(62)分割の表示	特願2009-244855 (P2009-244855)の分割
原出願日	平成21年10月23日 (2009.10.23)
(65)公開番号	特開2013-59636 (P2013-59636A)
(43)公開日	平成25年4月4日 (2013.4.4)
審査請求日	平成24年11月14日 (2012.11.14)

(73)特許権者　500560129
株式会社ニトリホールディングス
北海道札幌市北区新琴似七条一丁目２番３９号
(74)代理人　100092897
弁理士　大西　正悟
(74)代理人　100097984
弁理士　川野　宏
(74)代理人　100157417
弁理士　並木　敏章
(72)発明者　今井　康一
東京都北区神谷３丁目６番２０号　株式会社ニトリ内

審査官　蔵野　いづみ

最終頁に続く

(54)【発明の名称】システムデスク

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
上下に延びて形成された支持部、および前記支持部により略水平に支持された平面視長方形の机側天板を備えた机と、
上下に延びて対向する一対の側板、および前記一対の側板間に略水平に支持された棚板を備えて構成されるとともに前記机に対して併置されて用いられる収納棚とを有したシステムデスクであって、
複数の前記収納棚が、前記机に対して併置されて用いられる構成となっており、
前記複数の収納棚は、前記収納棚それぞれの前記側板の対向方向における幅寸法を合計した合計幅寸法が、前記机側天板の長辺寸法と略一致するように形成され、
前記複数の収納棚を、前記側板同士を隣接させて前記机側天板の長辺に沿って位置させて前記机に対して併置させて用いるときに、
前記複数の収納棚のうちで前記対向方向における一端に位置する前記側板を前記机側天板の前記長辺方向における一端部に揃え、且つ前記複数の収納棚のうちで前記対向方向における他端に位置する前記側板を前記机側天板の前記長辺方向における他端部に揃えて併置可能であることを特徴とするシステムデスク。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、机と書籍等を収納可能な書棚とからなるシステムデスクに関する。

【背景技術】
【０００２】
従来、机と書棚とがセットになったものの一例として、学習机とこの学習机の天板上に載置された書棚とから構成された本棚付学習机が知られている（例えば、特許文献１参照）。このような学習机においては一般的に、その構造上本棚の容積を大きく形成することが難しく、本棚の容積が比較的小さい構成となっている。そのため、ユーザーが例えば小学生低学年で収納すべき書籍等が比較的少ない時期にはこの構成で十分対応可能であるが、ユーザーの成長に伴って収納すべき書籍等が増加した場合には収納容積が不足しがちになるという問題があった。
【０００３】
この問題に対しては、例えば特許文献２に示すように、机と収納容積が十分確保された自立型書棚とを設けたシステムデスクが知られている。この自立型書棚（書棚）は上書棚と下書棚とから構成されているので、ユーザーの好みに応じて机の天板の上に上書棚を載置したり、または下書棚の上に上書棚を載置することが可能である。また、特許文献２においては、机の左右幅寸法に合わせて書棚（上書棚および下書棚）を形成し、この書棚を机の奥側に置いた場合（図１参照）や、机の側方に置いた場合（図４参照）が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特許３５７７９５５号公報
【特許文献２】特開２００８－２２８９１３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、ユーザーによっては、書棚を机の脇（左右側方）に机に向けた状態で置き、椅子に座ったまま書棚に対して書類等を出し入れできる配置構成を望む場合がある。上記特許文献２においては、書棚は、机の奥行き寸法よりも大きな左右幅寸法に合わせて形成されているため、上記配置構成を採用した場合には机の奥行き方向に書棚が飛び出して、書棚が邪魔になるとともに見た目にもすっきりしない印象を与えてしまう。これに対し、机の奥行き寸法に合わせて書棚を形成する方法が考えられ、この書棚を机の脇に置いた場合には奥行き方向に飛び出すことなくすっきりしているが、机の奥側に置いた場合には机の左右幅寸法と揃っていない（机の左右幅寸法よりも小さい）ため、すっきりしない印象を与えてしまう。このように、書棚を机の脇に置いた場合、および書棚を机の奥側に置いた場合のどちらにおいても、書棚を机の寸法に揃えてすっきりとしたシステムデスクを実現することが困難であるという課題があった。
【０００６】
本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、机の脇に置いても奥側に置いてもすっきりとする書棚を備えたシステムデスクを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
上記目的を達成するため、本発明に係るシステムデスクは、上下に延びて形成された支持部（例えば、実施形態における脚板１１）、および前記支持部により略水平に支持された平面視長方形の机側天板（例えば、実施形態における天板１６）を備えた机と、上下に延びて対向する一対の側板、および前記一対の側板間に略水平に支持された棚板を備えて構成されるとともに前記机に対して併置されて用いられる収納棚（例えば、実施形態における幅広書棚３０、幅狭書棚５０）とを有したシステムデスクであって、複数の前記収納棚が、前記机に対して併置されて用いられる構成となっており、前記複数の収納棚は、前記収納棚それぞれの前記側板の対向方向における幅寸法を合計した合計幅寸法が、前記机側天板の長辺寸法と略一致するように形成され、前記複数の収納棚を、前記側板同士を隣

接させて前記机側天板の長辺に沿って位置させて前記机に対して併置させて用いるときに、前記複数の収納棚のうちで前記対向方向における一端に位置する前記側板を前記机側天板の前記長辺方向における一端部に揃え、且つ前記複数の収納棚のうちで前記対向方向における他端に位置する前記側板を前記机側天板の前記長辺方向における他端部に揃えて併置可能であることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

本発明に係るシステムデスクは、複数の収納棚のそれぞれにおける側板間の所定間隔を合計した合計間隔値が、机側天板における長辺長さと略一致するように形成され、複数の収納棚のうちのいずれかは、所定間隔が机側天板における短辺長さと略一致するように形成されている。そのため、収納棚を机の脇に置いた場合、および収納棚を机の奥側に置いた場合のどちらにおいても、収納棚を机の寸法に揃えてすっきりと配置することができる。

【０００９】

上記システムデスクにおいて、収納棚が、下側収納棚とこの下側収納棚の上側に載置可能な上側収納棚とから構成されたことが好ましい。このように構成した場合、例えば下側収納棚から分離した上側収納棚を机側天板に載置する配置ができ、ユーザーの好みに応じた様々な配置構成が可能となる。また、棚側天板は、対向する少なくとも１対の辺の長さが所定間隔と略一致するように形成され、机側天板と略同一の高さ位置に支持されたことが好ましい。このように構成すると、収納棚の収納容量を確保しつつその外形をコンパクトに構成することができる。このとき、棚側天板と机側天板とが略同一の高さに位置しているので、例えば上側収納棚が分離された下側収納棚を机に隣接させることにより、棚側天板と机側天板とからなる段差のない広い作業領域を形成することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【００１０】

【図１】本発明を適用したシステムデスクの正面図である。

【図２】机を示す図であって、（ａ）は正面図を、（ｂ）は側面図を、（ｃ）は平面図をそれぞれ示す。

【図３】幅広書棚を示す図であって、（ａ）は正面図を、（ｂ）は側面図を、（ｃ）は平面図をそれぞれ示す。

【図４】（ａ）は連結金具の拡大図で、（ｂ）は図４（ａ）中のＩＶ（ｂ）－ＩＶ（ｂ）部分を示す断面図である。

【図５】幅狭書棚を示す図であって、（ａ）は正面図を、（ｂ）は側面図を、（ｃ）は平面図をそれぞれ示す。

【図６】第１の配置変形例を示す正面図である。

【図７】第２の配置変形例を示す正面図である。

【図８】第２の配置変形例を示す平面図である。

【図９】第３の配置変形例を示す正面図である。

【図１０】第４の配置変形例を示す正面図である。

【図１１】第４の配置変形例を示す平面図である。

【図１２】第５の配置変形例を示す平面図である。

【図１３】第６の配置変形例を示す正面図である。

【図１４】第７の配置変形例を示す正面図である。

【図１５】（ａ）および（ｂ）は、別の構成のシステムデスクを示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１１】

以下、図面を参照しながら、本発明の実施形態について説明する。なお、説明の便宜上、各図面において矢印方向で本発明に係るシステムデスクの前後、左右、および上下方向を示し、以下この方向を用いて説明を行う。

【００１２】

図１～５を参照しながら、本発明に係るシステムデスク１の各構成部材について説明する。システムデスク１は、図１に示すように、机１０と、収納ワゴン２０と、幅広書棚３０と、幅狭書棚５０とから構成され、これらの色彩は統一されている。なお、図１では、机１０の左側に幅広書棚３０を、机１０の右側に幅狭書棚５０をそれぞれ配置した例を示しているが、本発明に係るシステムデスク１はこの配置例に限定されることなく後述するように種々の配置が可能となっている。

【００１３】

収納ワゴン２０は、図１に示すように全体として略直方体に形成され、図示しないワゴン本体の下端部に複数のキャスター２１が取り付けられて移動自在となっている。また、下から順に下引出し２２、中引出し２３および上引出し２４が、ワゴン本体に対して前方に引き出し可能に設けられている。収納ワゴン２０の上端部には略水平に天板２５が取り付けらており、この天板２５はワゴン本体に対して上下に高さ調整可能となっている。

【００１４】

机１０は、図２（ａ）～（ｃ）に示すように、左右端部において上下に延びた脚板１１と、脚板１１の下部を繋ぐように取り付けられた下部連結板１２と、脚板１１の下端部に前後に延びて固定された足部１３と、２つの引き出し１５と、天板１６とから構成される。引き出し１５は、前後に延びて脚板１１に固定されたガイドレール１４に取り付けられており、前方に引き出し可能となっている。天板１６は、脚板１１に固定されて略水平に支持されており、例えば左右幅Ｗ１が約1000㎜で前後幅Ｄ１が約600㎜の長方形に形成されている（図２（ｃ）参照）。なお、天板１６は種々のサイズに形成可能であるが、例えばユーザーの使い勝手を考慮した場合、ユーザーが椅子（図示せず）に座った状態で天板１６の隅にまで手が届くサイズであることが好ましい。

【００１５】

幅広書棚３０は、図３（ａ）～（ｃ）に示すように、下側に位置した幅広下棚３０Ｌと、この幅広下棚３０Ｌの上側に載置された幅広上棚３０Ｕとから構成される。このように、幅広下棚３０Ｌの上側に幅広上棚３０Ｕを載置した状態においては、連結金具７０を用いて幅広下棚３０Ｌに対して幅広上棚３０Ｕが固定されており、幅広上棚３０Ｕの落下防止が図られている。なお、連結金具７０を取り外すことにより、幅広下棚３０Ｌに対して幅広上棚３０Ｕが分離された状態となり、後述する種々の配置構成が可能となる。

【００１６】

幅広上棚３０Ｕは、左右端部において上下に延びた一対の側板３１と、この側板３１の後端部を繋ぐように取り付けられて上下に延びた後板３２と、棚板３３と、仕切り板３４と、２つの引出し３５と、電源コンセント３６とから構成される。棚板３３は、側板３１および後板３２によって囲まれた領域に設けられており、側板３１および後板３２に固定されて略水平となっている。仕切り板３４は、棚板３３の上面側に取り付けられて上下に延びている。引出し３５は、棚板３３の下面側に取り付けられており、前方に引き出し可能となっている。

【００１７】

電源ユニット３６は、電気機器の差込プラグが挿入される差し込み口を複数備えて構成され、側板３１に取り付けられている。上記後板３２には、この電源ユニット３６の取付位置に対応させてコード用孔３２ａが形成されている。そのため、電源ユニット３６から伸びる電源コード（図示せず）を、コード用孔３２ａを挿通させて電源コンセント（図示せず）と電気接続可能であり、電源コードの取り回しが容易となる。

【００１８】

なお、図３等には、左側の側板３１の下端部近傍に電源ユニット３６を取り付けた構成を示しているが、ユーザーは使用状態に応じてこの電源ユニット３６を取り外し、右側の側板３１の下端部近傍（電源ユニット３６ａの位置）、左側の側板３１の中央部分（電源ユニット３６ｂの位置）、または右側の側板３１の中央部分（電源ユニット３６ｃの位置）に固定することができる。このとき、電源ユニット３６ａ～３６ｃの各位置に対応させて、後板３２にコード用孔３２ｂ～３２ｄがそれぞれ形成されているので、電源ユニット

３６をどの位置に取り付けた場合であっても電源コードの取り回しが容易である。

【００１９】

幅広下棚３０Ｌは、左右端部において上下に延びた一対の側板４１と、この側板４１の後端部を繋ぐように取り付けられて上下に延びた後板４２と、複数の棚板４３と、底板４４と、天板４５とから構成される。棚板４３は、側板４１の内側に取り付けられた支持金具（図示せず）により支持されて略水平となっており、側板４１に対して着脱自在となっている。そのため、支持金具の取付位置を変更することにより、棚板４３の上下位置を変更できるようになっている。底板４４は、その左右端部が側板４１に固定されて略水平となっている。天板４５は、側板４１に固定されて略水平に支持されており、例えば左右幅Ｗ２が約600㎜で前後幅Ｄ２が約235㎜の長方形に形成されている（図３（ｃ）参照）。

【００２０】

図３（ｃ）から分かるように、幅広上棚３０Ｕの左右寸法および前後寸法は、天板４５のそれと略同一となっている。また、天板４５の厚みは、机１０を構成する天板１６の厚みと略同一となっている。幅広下棚３０Ｌが組み立てられた状態において、幅広下棚３０Ｌを構成する天板４５の高さ位置と、机１０を構成する天板１６の高さ位置とが略同一となっている（図１参照）。なお、図３等には、２つの棚板４３を備えた構成を示しているが、これは一例であって、棚板４３の枚数は使用状態に応じて変更可能である。

【００２１】

ここで、幅広書棚３０の左右端部に取り付けられた連結金具７０について、図４を参照しながら説明する。

【００２２】

連結金具７０は、図４（ａ）および（ｂ）に詳しく図示するように、金属板を折曲等して形成されており、幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとを連結することにより固定可能な強度を有している。連結金具７０の上部には、略リング状に押し出された突出部７１が形成されている。この突出部７１の中心部分には、上下に延びたねじ用孔７２が長穴状に形成されており、このねじ用孔７２の下端部はその上端部よりも幅広く（略卵形に）形成されている。

【００２３】

連結金具７０の下部には、略コの字状に折曲された係止部７３が形成されており（図４（ｂ）参照）、この係止部７３の上下幅は天板４５の厚みよりも僅かに広く形成されている。係止部７３の先端部には、上方に向けて尖った係止爪７４が２つ形成されている。また、側板３１には固定ねじ７９が挿入可能なねじ穴３１ａが形成され、側板４１にはこのねじ穴３１ａの位置に対応させて逃がし空間４１ａが形成されている。

【００２４】

上記連結金具７０を用いて、幅広下棚３０Ｌの上側に載置された幅広上棚３０Ｕを幅広下棚３０Ｌに連結する手順について説明する。まず、係止部７３の先端を逃がし空間４１ａに挿入するとともに、ねじ用孔７２に固定ねじ７９を挿入し、ねじ７９の先端をねじ穴３１ａに挿入する。このとき、係止部７３の上下幅が天板４５の厚みよりも広く形成されているため、係止爪７４が天板４５に食い込んでいない。

【００２５】

次に、固定ねじ７９により、側板３１に対して連結金具７０を締結する。このとき、固定ねじ７９の先端がねじ穴３１ａに挿入されていくのに応じて、突出部７１の内周側斜面が固定ねじ７９の頭部７９ａにより押圧され、連結金具７０全体が徐々に上方に移動される。上述のように、ねじ用孔７２が上下に延びた長穴状に形成されているので、連結金具７０の移動が妨げられない。このようにして連結金具７０が上方に移動されると、係止爪７４が天板４５の下面に食い込んで、連結金具７０と幅広下棚３０Ｌとが固定されるとともに、固定ねじ７９により連結金具７０と幅広上棚３０Ｕとが固定される。すなわち、連結金具７０を介して、幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとが連結固定される。

【００２６】

幅狭書棚５０は、図５（ａ）～（ｃ）に示すように、下側に位置した幅狭下棚５０Ｌと

、この幅狭下棚５０Ｌの上側に載置された幅狭上棚５０Ｕとから構成される。このように、幅狭下棚５０Ｌの上側に幅狭上棚５０Ｕを載置した状態においては、上述した連結金具７０が幅狭書棚５０の左右端部に取り付けられて、幅狭下棚５０Ｌに対して幅狭上棚５０Ｕが固定されて幅狭上棚５０Ｕの落下防止が図られている。なお、連結金具７０を取り外すことにより、幅狭下棚５０Ｌと幅狭上棚５０Ｕとが分離された状態となり、後述する種々の配置構成が可能となる。

【００２７】

幅狭上棚５０Ｕは、左右端部において上下に延びた一対の側板５１と、この側板５１の後端部を繋ぐように取り付けられて上下に延びた後板５２と、棚板５３と、仕切り板５４とから構成される。棚板５３は、側板５１および後板５２によって囲まれた領域に設けられており、側板５１および後板５２に固定されて略水平となっている。仕切り板５４は、棚板５３の上面側に取り付けられて上下に延びている。

【００２８】

幅狭下棚５０Ｌは、左右端部において上下に延びた一対の側板６１と、この側板６１の後端部を繋ぐように取り付けられて上下に延びた後板６２と、複数の棚板６３と、底板６４と、天板６５とから構成される。棚板６３は、側板６１の内側に取り付けられた支持金具（図示せず）により支持されて略水平となっており、側板６１に対して着脱自在となっている。そのため、支持金具の取付位置を変更することにより、棚板６３の上下位置を変更できるようになっている。底板６４は、その左右端部が側板６１に固定されて略水平となっている。天板６５は、側板６１に固定されて略水平に支持されており、例えば左右幅Ｗ３が約400㎜で前後幅Ｄ３が約235㎜の長方形に形成されている（図５（ｃ）参照）。

【００２９】

図５（ｃ）から分かるように、幅狭上棚５０Ｕの左右寸法および前後寸法は、天板６５のそれと略同一となっている。また、天板６５の厚みは、机１０を構成する天板１６の厚みと略同一となっている。幅狭下棚５０Ｌが組み立てられた状態において、幅狭下棚５０Ｌを構成する天板６５の高さ位置と、机１０を構成する天板１６の高さ位置とが略同一となっている（図１参照）。なお、図５等には、２つの棚板６３を備えた構成を示しているが、これは一例であって、棚板６３の枚数は使用状態に応じて変更可能である。

【００３０】

以上ここまで、システムデスク１の各構成部材について説明した。以下において、上述の机１０、収納ワゴン２０、幅広書棚３０および幅狭書棚５０からなるシステムデスク１の配置構成について、図１を参照しながら説明する。

【００３１】

図１には、机１０の下方に収納ワゴン２０を収納させ、机１０の左方に幅広書棚３０、机１０の右方に幅狭書棚５０をそれぞれ配置した例を示している。幅広書棚３０および幅狭書棚５０は、前方から書籍等の出し入れが可能な向きに配置されている。このシステムデスク１の配置構成は、例えば左右方向のスペースに余裕がある一方で、前後方向のスペースに比較的余裕の少ない部屋に配置する場合に、特に有効である。

【００３２】

以上、システムデスク１の配置構成について説明した。以下において、システムデスク１と同一の構成部材を用いて配置構成のみを変更した７つの変形例（システムデスク２～８）について、図６～１４を参照しながら説明する。すなわち、ユーザーは、上述のシステムデスク１を購入することにより、新たに構成部材を追加することなく配置する部屋の特性や使用状態等に応じて配置構成を変更できて、使い勝手の良いシステムデスクを実現可能となっている。なお、以下のシステムデスク２～８においては、上述のシステムデスク１の構成部材と同一の構成部材には同一番号を付けている。

【００３３】

図６を参照しながら、第１の変形例であるシステムデスク２について説明する。

【００３４】

このシステムデスク２は、システムデスク１の配置構成に対して、まず、幅広書棚３０

における連結金具７０を取り外して幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとを分離し、同様に幅狭書棚５０における連結金具７０を取り外して幅狭下棚５０Ｌと幅狭上棚５０Ｕとを分離した状態にする。分離した幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕを、天板１６上に左右に並べて載置する。図６には、左側に幅広上棚３０Ｕを、右側に幅狭上棚５０Ｕを載置した場合を例示している。そして、幅広上棚３０Ｕの左側の側板３１と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて連結するとともに、幅広上棚３０Ｕの後板３２と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて固定する。幅狭上棚５０Ｕにおいても同様に、幅狭上棚５０Ｕの右側の側板５１と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて連結するとともに、幅狭上棚５０Ｕの後板５２と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて固定する。こうすることで、机１０（天板１６）に対して、幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕがしっかりと固定される。

【００３５】

上述したように、幅広上棚３０Ｕの左右幅Ｗ２と幅狭上棚５０Ｕの左右幅Ｗ３との合計幅が、天板１６の左右幅と略一致するように形成されているので、このシステムデスク２の配置構成においては、幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕを天板１６上にすっきりと納めることができる。また、幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕが天板１６に載置されているので、ユーザーは立ち上がることなく椅子に座ったまま、幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕに対して書籍等を出し入れすることができ、使い勝手が良くなる。

【００３６】

図７および８を参照しながら、第２の変形例であるシステムデスク３について説明する。

【００３７】

このシステムデスク３は、システムデスク１の配置構成に対して、まず幅広書棚３０における連結金具７０を取り外して、幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとを分離した状態にする。そして、分離した幅広上棚３０Ｕを天板１６の後側右端部に載置し、幅広上棚３０Ｕの右側の側板３１と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて連結するとともに、幅広上棚３０Ｕの後板３２と机１０の天板１６とを連結金具７０を用いて固定する。こうすることで、机１０（天板１６）に対して、幅広上棚３０Ｕがしっかりと固定される。次に、幅広下棚３０Ｌの向きを変えて、右方から書籍等の出し入れができる向きにするとともに、机１０（天板１６）に寄せる。

【００３８】

このとき、天板１６の前後幅Ｄ１と天板４５の左右幅Ｗ２とは略同一となるように形成されているので、机１０に対して幅広下棚３０Ｌが前後に飛び出すことなくすっきりと並べることができる（図８参照）。また、天板１６と天板４５とは上下方向に高さが揃っているので、結果的に作業スペースを拡大することができる。さらに、図２（ｂ）に示すように、机１０の脚板１１は左右に大きく開口しているので、ユーザーは立ち上がることなく椅子に座ったままの状態で、この開口部分を利用して幅広下棚３０Ｌに対して書籍等を出し入れでき、使い勝手が良くなる。

【００３９】

図９を参照しながら、第３の変形例であるシステムデスク４について説明する。

【００４０】

このシステムデスク４は、システムデスク１の配置構成に対して、幅広書棚３０の向きを変えて、右方から書籍等の出し入れができる向きにするとともに、机１０（天板１６）に寄せる。上述のように、天板１６の前後幅Ｄ１と天板４５（幅広書棚３０）の左右幅Ｗ２とは略同一となるように形成されているので、机１０に対して幅広書棚３０が前後に飛び出すことなくすっきりと並べることができる。このシステムデスク４の配置構成においては、ユーザーは立ち上がることなく椅子に座ったままの状態で、左方に位置した幅広下棚３０Ｌおよび幅広上棚３０Ｕに腕を伸ばして簡単に書籍等を出し入れすることができる。

【００４１】

図１０および１１を参照しながら、第４の変形例であるシステムデスク５について説明する。

【００４２】

このシステムデスク５は、システムデスク１の配置構成に対して、幅広書棚３０を机１０の後方左側に移動させ、幅狭書棚５０を机１０の後方に移動させて幅広書棚３０の右側に隣接させる。ここで、幅広書棚３０の左右幅Ｗ２と幅狭書棚５０の左右幅Ｗ３との合計幅が、天板１６の左右幅Ｗ１と一致するように形成されているので、机１０（天板１６）に対して幅広書棚３０および幅狭書棚５０が左右に飛び出すことがなくすっきりと並べることが可能である。また、ユーザーは立ち上がることなく椅子に座ったまま、机１０の下方において幅広下棚３０Ｌおよび幅狭下棚５０Ｌに対して書籍等の出し入れができる。

【００４３】

なお、図１０に示すように、収納ワゴン２０を机１０の下方から例えば机１０の右方に移動させるとともに、天板２５の高さを調整して天板１６の高さに揃えた構成としても良い。このようにすると、結果的に天板２５の分だけ作業スペースを拡大させて使い勝手を向上させることができる。また、天板１６上を照らす照明が必要な場合には、例えばアーム型の卓上照明９を天板１６の後側左端部に取り付け、卓上照明９の差込プラグを電源ユニット３６に差し込むと良い。この場合、卓上照明９と電源ユニット３６とが近くに位置しているので、差込プラグの差込作業が容易となる。

【００４４】

図１２を参照しながら、第５の変形例であるシステムデスク６について説明する。

【００４５】

このシステムデスク６は、幅広書棚３０および幅狭書棚５０の向きを、右側から書籍等を出し入れ可能な向きにするとともに、机１０の左方に幅広書棚３０を隣接させ、この幅広書棚３０の前方に幅狭書棚５０を隣接させて並べる。この配置構成により、ユーザーは椅子に座ったままの状態で腕を伸ばすだけで幅広書棚３０および幅狭書棚５０にアクセスでき、書籍等の出し入れを容易に行うことができる。このとき、机１０の前後幅Ｄ１と幅広書棚３０の左右幅Ｗ２とが一致しているので、まとまりのあるシステムデスク６を実現できる。

【００４６】

図１３を参照しながら、第６の変形例であるシステムデスク７について説明する。

【００４７】

このシステムデスク７は、システムデスク１の配置構成に対して、幅狭書棚５０における連結金具７０を取り外して、幅狭下棚５０Ｌと幅狭上棚５０Ｕとを分離した状態にする。分離した幅狭上棚５０Ｕを天板１６の後側左方に載置して、２つの連結金具７０を用いて固定する。そして、幅狭下棚５０Ｌの向きを左側から書籍等を出し入れ可能な向きにして机１０に寄せ、収納ワゴン２０を机１０の下方において左方に寄せる。そうすることにより、椅子に座ったまま幅狭下棚５０Ｌに対して書籍等を出し入れでき、使い勝手が向上する。

【００４８】

図１４を参照しながら、第７の変形例であるシステムデスク８について説明する。

【００４９】

このシステムデスク８は、机１０の左方に幅広書棚３０および幅狭書棚５０を並べた配置構成となっている。特に左右方向に比較的スペースがある部屋に対しては、このような配置構成が有効である。この配置構成の場合、幅広書棚３０および幅狭書棚５０に、どうような書籍が収納されているのかを一目で把握することができる。

【００５０】

以上ここまでは、システムデスク１と同一の構成部材を用いて配置構成のみを変更した変形例（システムデスク２～８）について説明した。ところで、机１０の天板１６は様々なサイズに形成可能であり、左右幅および前後幅ともに天板１６よりも大きく形成される場合がある。この天板の拡大に対して、幅広書棚３０および幅狭書棚５０の左右幅を広げ

ることにより、上述の寸法関係を保つことも可能ではあるが、そうした場合には幅広書棚３０および幅狭書棚５０の強度が低下しやすくなる。このような場合に特に有効な構成の一例として、図１５（ａ）および（ｂ）に示すシステムデスク１００が挙げられ、以下においてこのシステムデスク１００について説明する。なお、図１５（ａ）および（ｂ）において、システムデスク１と同一構成部材には同一番号を付している。

【００５１】

システムデスク１００は、図１５（ａ）に示すように、左右幅Ｗ４（＞Ｗ１）で前後幅Ｄ４（＞Ｄ１）のサイズに形成された天板１６'を備えた机１０'に対して、例えば２つの幅広書棚３０と１つの幅狭書棚５０とを組み合わせて構成される。ここで、幅広書棚３０の左右幅Ｗ２の２倍に幅狭書棚５０の左右幅Ｗ３を加えた寸法が、机１０'の左右幅Ｗ４と一致している。また、幅広書棚３０の左右幅Ｗ２に幅狭書棚５０の左右幅Ｗ３を加えた寸法が、机１０'の前後幅Ｄ４と一致している。

【００５２】

システムデスク１００の構成において、例えば左右方向になるべくコンパクトになった配置構成としたい場合には、図１５（ａ）に示すように、机１０'の後方に２つの幅広書棚３０と１つの幅狭書棚５０とを左右に並べて配置すると良い。そうすることにより、幅広書棚３０および幅狭書棚５０の各々の強度を確保しつつ、これらと天板１６'の左右幅とを一致させて、全体としてすっきりとした配置構成にすることができる。

【００５３】

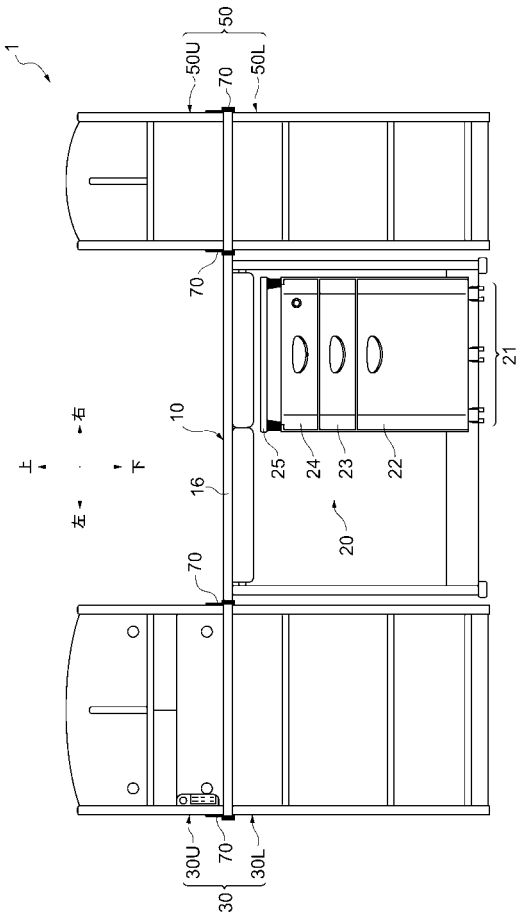
例えば前後方向へのスペースが限られている場合には、図１５（ｂ）に示すように、２つのうち１つの幅広書棚３０を幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとに分離するとともに、幅狭書棚５０を幅狭下棚５０Ｌと幅狭上棚５０Ｕとに分離する。分離した幅広上棚３０Ｕおよび幅狭上棚５０Ｕを天板１６'に載置し、連結金具７０を用いて天板１６'に連結して固定する。一方、分離した幅広下棚３０Ｌおよび幅狭下棚５０Ｌを、右方からアクセス可能な向きにして天板１６'の左側に前後に並べて配置する。そして、天板１６'の右側に幅広下棚３０Ｌと幅広上棚３０Ｕとが一体となった幅広書棚３０を位置させる。このように配置すると、幅広書棚３０および幅狭書棚５０の各々の強度を確保しつつ、天板１６'に対して幅広下棚３０Ｌおよび幅狭下棚５０Ｌが前後方向に飛び出ることがなく、すっきりと並べることができる。

【符号の説明】

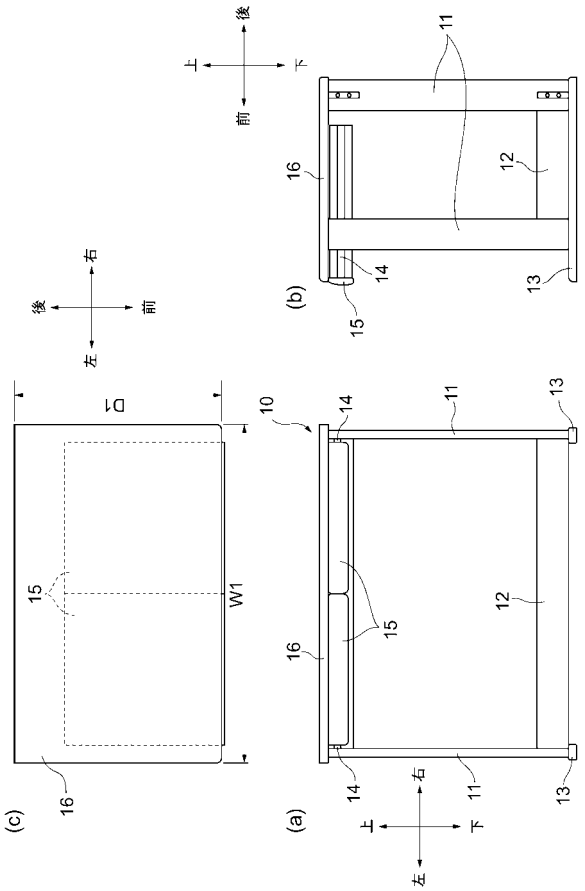
【００５４】

１　システムデスク
１０　机
１１　脚板（支持部）
１６　天板（机側天板）
３０　幅広書棚（収納棚）
３０Ｌ　幅広下棚（下側収納棚）
３０Ｕ　幅広上棚（上側収納棚）
３１　側板（上側側板）
３３　棚板
４１　側板（下側側板）
４５　天板（棚側天板）
５０　幅狭書棚（収納棚）
５０Ｌ　幅狭下棚（下側収納棚）
５０Ｕ　幅狭上棚（上側収納棚）
５１　側板（上側側板）
５３　棚板
６１　側板（下側側板）
６５　天板（棚側天板）

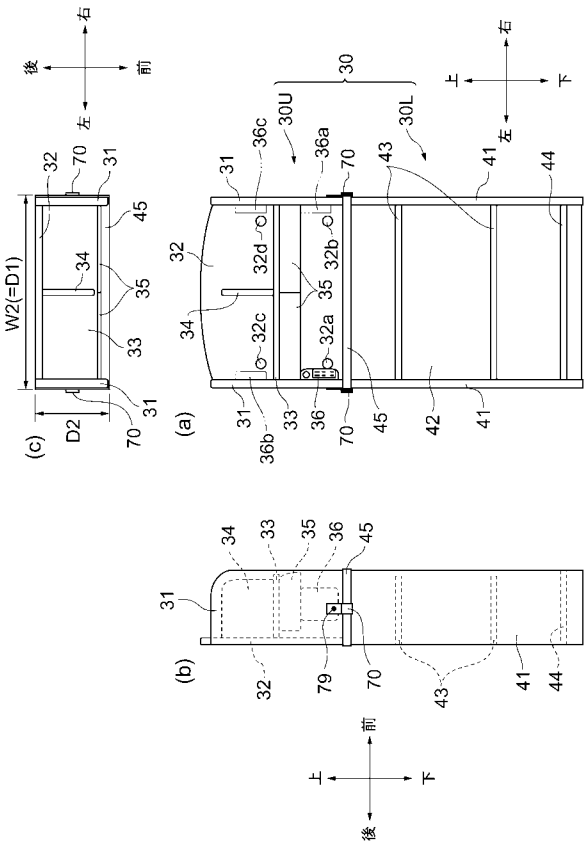
【図１】


1
50
50U
50L
70
30U
30L
30
10
16
20
21
22
23
24
25
上
下
左
右

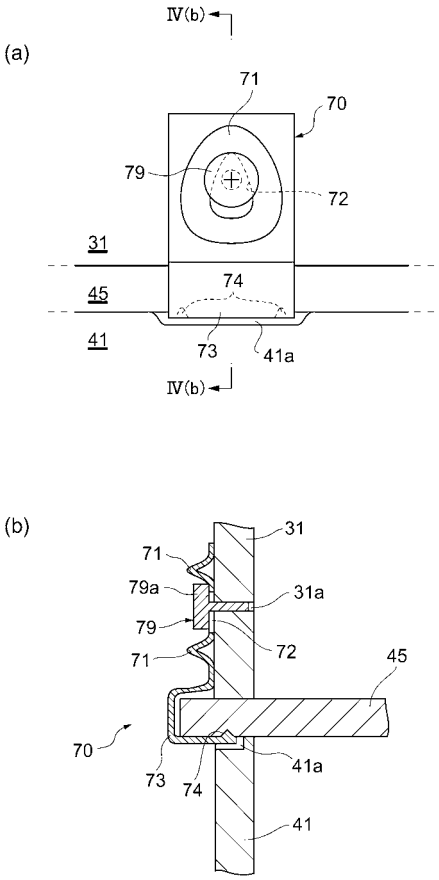
【図２】


(a)
(b)
(c)
D1
W1
10
11
12
13
14
15
16
上
下
左
右
前
後

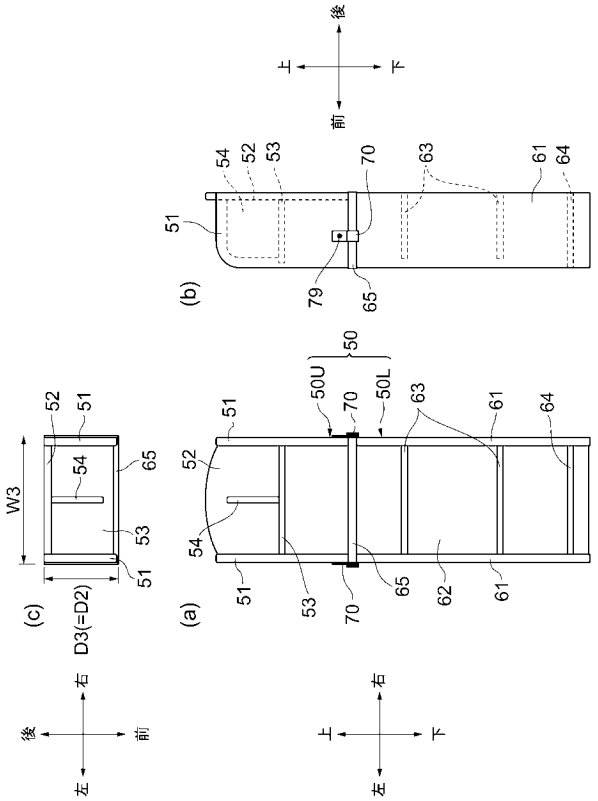
【図３】


(a)
(b)
(c)
W2(=D1)
D2
30
30U
30L
31
32
33
34
35
36
36a
36b
36c
41
42
43
44
45
70
後
前
左
右
上
下

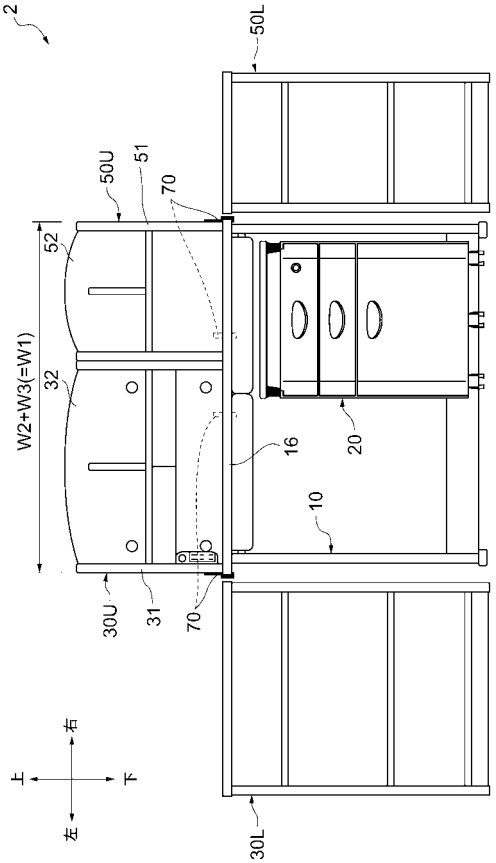
【図４】


(a)
(b)
Ⅳ(b)
31
31a
41
41a
45
70
71
72
73
74
79
79a

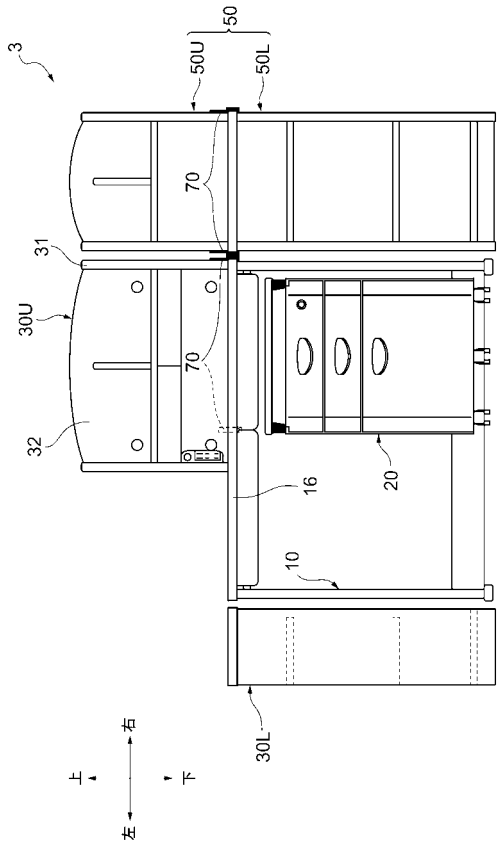
【図５】



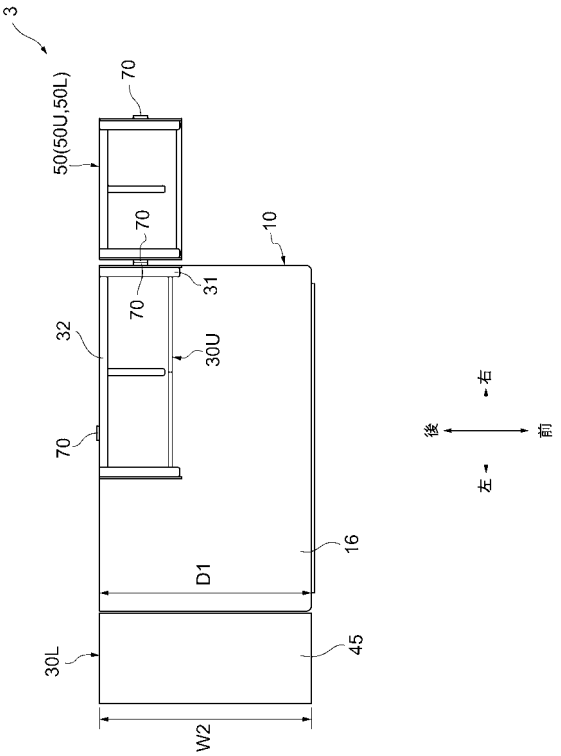
【図６】



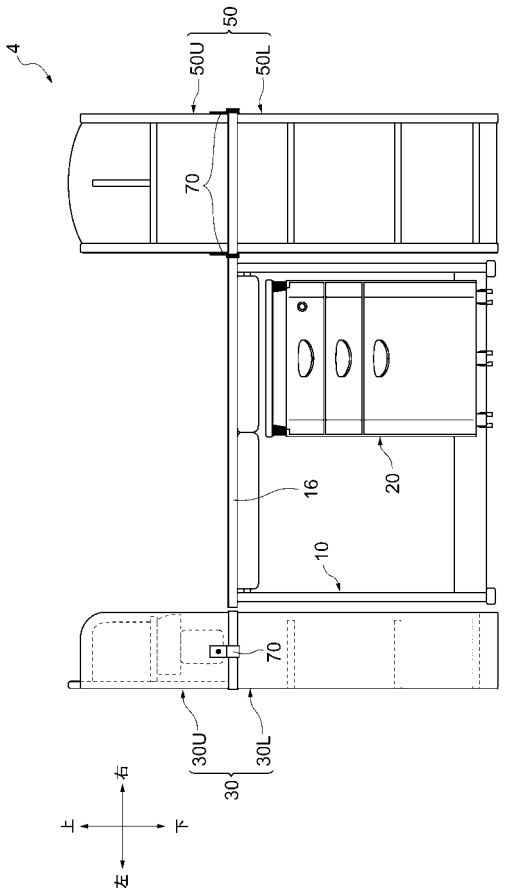
【図７】



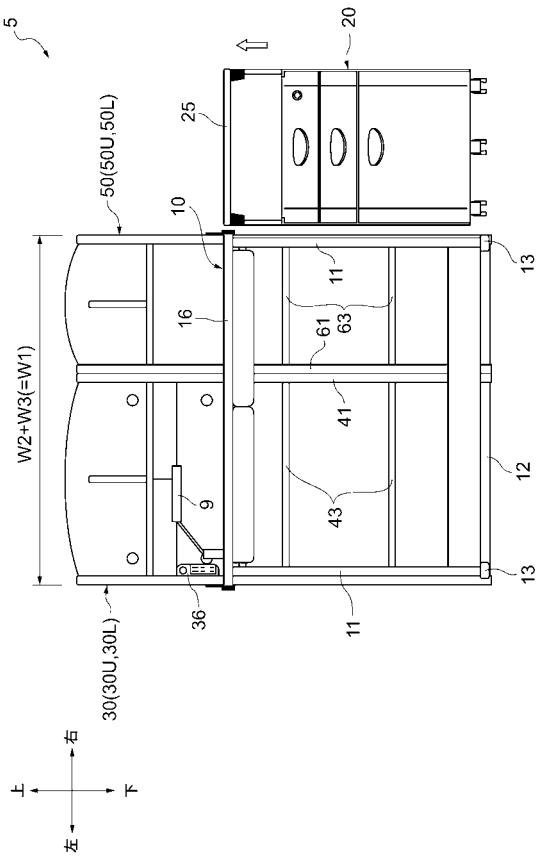
【図８】



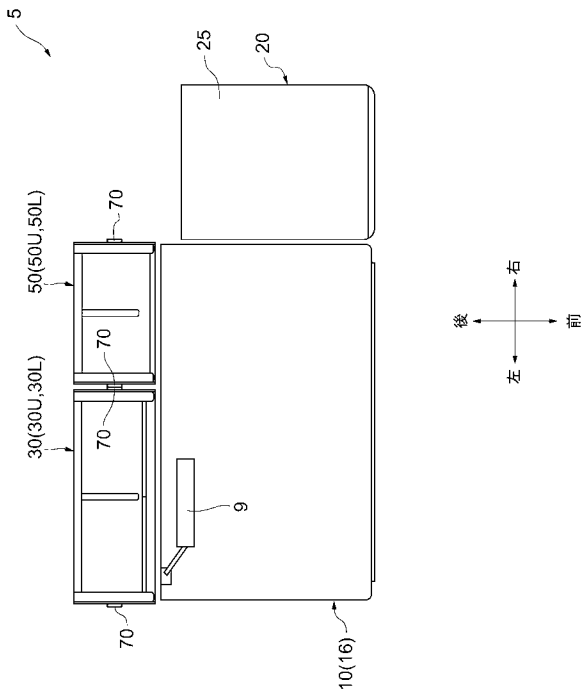
【図９】



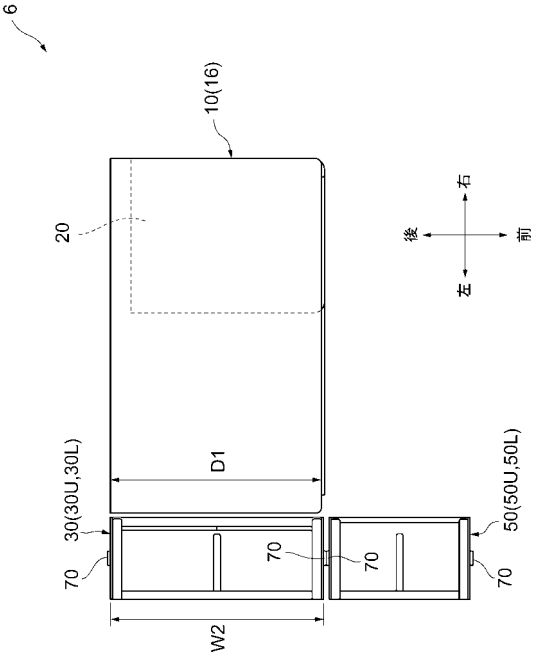
【図１０】



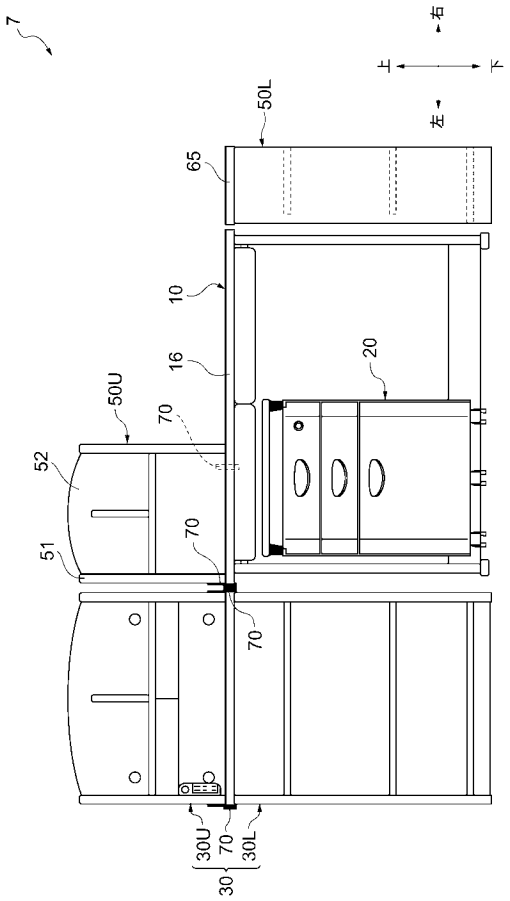
【図１１】



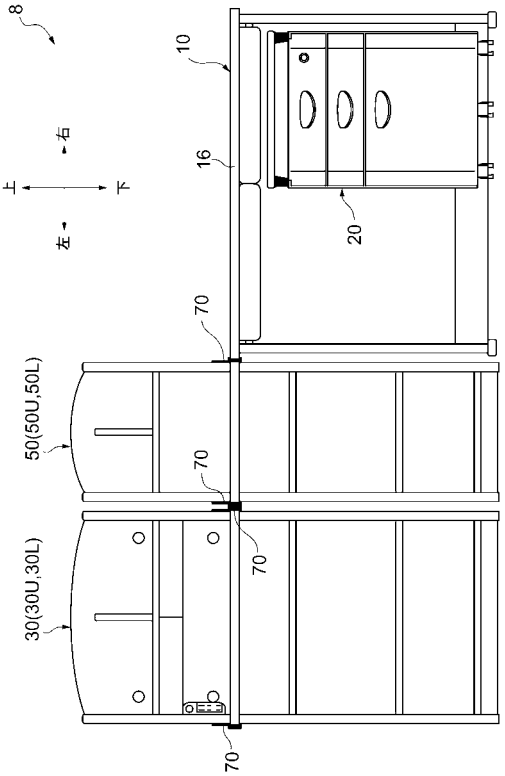
【図１２】



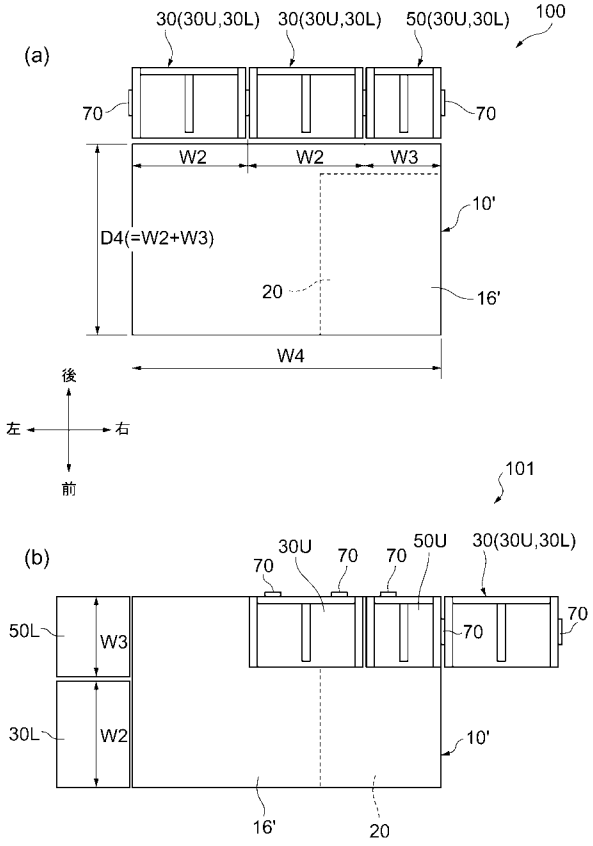
【図１３】


7
右
上
下
左
50L
65
10
16
20
50U
70
52
51
70
70
30U
70
30L
30

【図１４】


8
10
右
16
上
下
20
左
70
50(50U,50L)
70
70
30(30U,30L)
70

【図１５】


(a)
30(30U,30L)
30(30U,30L)
50(30U,30L)
100
70
70
W2
W2
W3
D4(=W2+W3)
10'
20
16'
W4
後
左
右
前
101
(b)
70
30U
70
70
50U
30(30U,30L)
70
70
50L
W3
30L
W2
10'
16'
20

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００５－１０２８７６（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－２５３７１９（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－３０１９７２（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－２２８９１３（ＪＰ，Ａ）
特開２００８－２２９２２０（ＪＰ，Ａ）
実開平４－１３３７４６（ＪＰ，Ｕ）
特開２００２－１０８３６（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｂ ８３／０４
Ａ４７Ｂ １７／００
Ａ４７Ｂ ８７／０２